

# 三重県での事例 | 上野キヤノンマテリアル株式会社（伊賀市）×西山自治会（伊賀市）

## 上野キヤノンマテリアル株式会社（伊賀市）×西山自治会（伊賀市）

上野キヤノンマテリアル株式会社と西山自治会は、農山漁村の活性化に向けた協働活動として地域内の清掃活動や地域のイベント（朝市・たなだ学校・ふれあいフェスタ・しめ縄教室）への参加などを行っています。

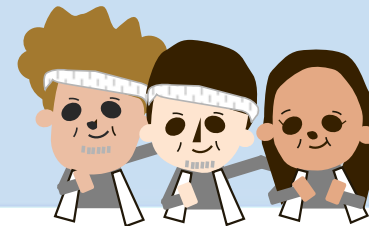
### 企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 社会貢献・地域貢献
- 社員の心の健康・満足度向上
- 社内コミュニケーション活性化



### 農山漁村地域にとって

- 農作業や環境整備活動の充実化・活動の幅の拡充
- 多様かつ活発なコミュニティの場の創出



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

# 三重県での事例

CSGコンサルタント株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社（伊勢市）×水土里プロジェクトおばた（伊勢市）

## CSGコンサルタント株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社×水土里プロジェクトおばた（伊勢市）

CSGコンサルタント株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社と水土里プロジェクトおばたは、地域の農業振興、環境整備活動、体験交流活動、地域活性化を目指し、田んぼアートに取り組んでいます。

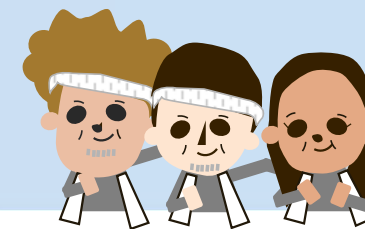
### 企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 地元からの信頼性向上
- 企業や社員の技術・能力を活用した社会貢献・地域貢献
- 自治体発注業務における入札評価での加点



### 農山漁村地域にとって

- 地域単独では難しい活動（田んぼアート）の実現
- 田んぼアートの実現による地域農業の振興・体験交流活動の促進・関係人口の創出



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

# 三重県での事例

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 玉城工場・山田清掃有限会社×清し有田佐田沖環境保全会（玉城町）

## 京セラドキュメントソリューションズ株式会社 玉城工場・山田清掃有限会社

### ×清し有田佐田沖環境保全会（玉城町）

里山ガーデニングコンテストの開催やビオトープの整備、フットパスの整備、エリア内の草刈りや観察用木道の整備、地元小学校の生き物観察会、生物調査などの協働活動などに取り組んでいます。

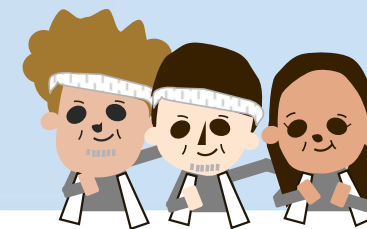
#### 企業にとって

- 地元からの信頼性向上
- 企業のCSR活動の実績となり「地域貢献」「環境保全」に力を入れているという企業イメージの向上
- 社員が農村の自然環境に親しむことができる



#### 農山漁村地域にとって

- 外部の人に地域活動に参加してもらうことで、受け入れ側の活動のモチベーションの維持
- 新しい視点での取組みのアイデアが期待



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>



# 三重県での事例 | 海洋ゴム株式会社（紀北町）×特定非営利活動法人ふるさと企画舎（紀北町）

## 海洋ゴム株式会社（紀北町）×特定非営利活動法人ふるさと企画舎（紀北町）

海洋ゴム株式会社と特定非営利活動法人ふるさと企画舎は、紀北町銚子川流域における農山漁村活性化に向けた協働活動として地元の特産品である「くき漬け」の原料であるサトイモ（ヤツガシラ）の種芋収穫作業への協力を行っています。

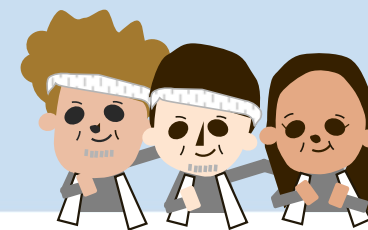
### 企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 社会貢献・地域貢献
- 自然に触れあえる場をつくることで社員の心の健康・満足度向上
- 社内コミュニケーション活性化



### 農山漁村地域にとって

- 農作業の労働力確保
- 地元特産品である「くき漬け」のPR



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

# 三重県での事例

熊野精工株式会社（熊野市）×御浜町尾呂志地区の組織（御浜町）

## 熊野精工株式会社（熊野市）×御浜町尾呂志地区の組織（御浜町）

熊野市有馬町にある熊野精工株式会社では、御浜町尾呂志地区の住民組織が取り組む酒米プロジェクトに協力し、地域資源の発掘、商品化（日本酒醸造）の活動を協働して行っています。

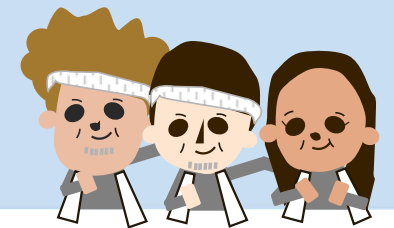
### 企業にとって

- 地域の中堅企業として地域コミュニケーションの活性化
- 企業イメージの向上
- 達成感による社員の士気向上  
心身のリフレッシュ
- 新たな商品開発への可能性



### 農山漁村地域にとって

- 作業における人手不足の解消
- 活動のPR効果の拡大  
住民の活動意欲の向上
- 企業リソースを活用した取組  
展開の可能性



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

# 三重県での事例

一般社団法人日本自動車連盟三重支部（津市）×三重県

## 一般社団法人日本自動車連盟三重支部（津市）×三重県

一般社団法人日本自動車連盟三重支部と三重県では、農山漁村の魅力発信や地域資源を活用した新たな取組を推進することで、都市と農山漁村の交流を促進するとともに農山漁村の活性化を図ります。

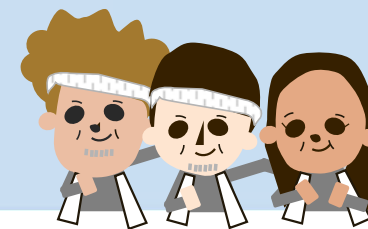
### 企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 企業の顧客へのサービス向上
- 地域課題解決にも効果がある新サービスの展開



### 農山漁村地域にとって

- 県内にある魅力的な棚田地域の情報発信
- 棚田保全への理解の醸成
- 棚田地域へのマイカーによるドライブでの誘客促進



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>



# 三重県での事例

株式会社ヤクルト東海（愛知県）・三重ヤクルト販売株式会社（津市）×三重県

## 株式会社ヤクルト東海（愛知県）・三重ヤクルト販売株式会社（津市）×三重県

株式会社ヤクルト東海・三重ヤクルト販売株式会社と三重県では、農山漁村資源の利活用の推進に向けた協働活動として、地域農産品を活用した健康レシピのSNS情報発信や各種イベントにおける地域住民の健康増進に向けた活動を行っています。

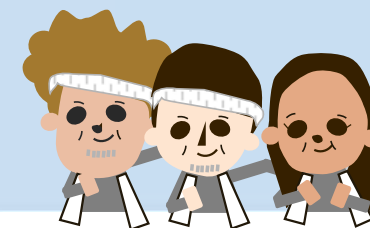
### 企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 社会貢献・地域貢献
- 自社製品のPR



### 農山漁村地域にとって

- 地域農産品の魅力PR
- 農山漁村地域の方の元気づくり
- イベント参加者の満足度向上

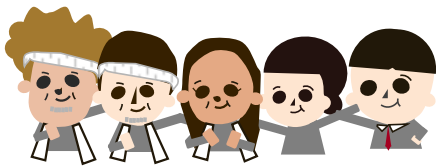


<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

# 協定の状況 -令和6年度末時点-

協定締結数 (H24からの累計)

25件



協定活動継続中

16件

協定活動休止中

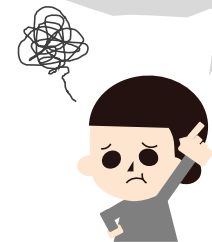
4件

協定終了

5件

協定締結後に活動が休止もしくは終了に至った事例も見受けられ、その背景にはいくつかの共通した要因が確認されています。

- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- 受入地域側の高齢化や担い手不足
- 企業側の人事異動や担当者の退職・交代
- 企業側の経営環境の変化やCSR方針の見直し





# 課題 -マッチング推進上のチャレンジ-

## マッチングの難しさ

- 一番の課題は、ニーズの噛み合わせです。
- 企業と地域それぞれに思いはあっても、「何を一緒にできるのか」を見出すまでに時間がかかる場合があります。
- 特に地域側は企業にどうアプローチして良いか分からないという声も多く、せっかく良い資源があっても提案ベースに乗せられない状況が見られます。
- 県が仲介しても、企業側の事情（人員や予算の都合等）でマッチング成立まで長期化するケースもあります。

## 地域側の受入体制

- 企業から人が来ても、受け入れる地域側に体制やノウハウが不足していると十分に活かせません。
- 例えば、大人数のボランティアを受け入れる際の作業段取りや安全管理、企業との調整役となるコーディネーター人材の育成といった課題があります。
- これらに対しては、県や中間支援組織によるサポート強化が必要と認識しています。

## 持続性の確保

- 協定を結んだ後、継続的な関係に発展させることも課題です。
- 初年度は物珍しさや熱意で盛り上がりつつも、担当者の異動や事業優先度の変化により活動が下火になる恐れもあります。
- これに対し、定期的なフォローアップや双方のメリットを再確認する場づくりが重要です。
- 活動を一過性のボランティアに終わらず、企業の本業や中長期計画に絡めて位置付ける工夫が求められます。

## 評価指標の設定

- 企業と地域の連携による効果をどう評価・可視化するかも課題です。
- 多面的機能の維持や地域活性化への寄与は定量化が難しい側面がありますが、双方に納得感を持って継続してもらうために、例えば「耕作放棄地の減少面積」「イベント参加者数」「開発商品売上」等の指標を共有し、進捗を測る工夫も検討すべきと認識しています。



# 今後の展望 -さらなる発展に向けて（担当者としての野望）-

## 企業連携の深化・拡大

- さらに積極的に企業側へ働きかけ、参加企業の裾野拡大を図ります。
- 特に地元企業のみならず都市部の企業にも三重の農山漁村の魅力をPRし、新たなマッチングを創出していきます。
- その際、単なるCSRに留まらず企業の本業に資する連携（例えば製造業が農産廃棄物を原料に商品開発、IT企業が農業ICTを実証等）を模索し、企業にとっても事業価値のある協働へ深化させていきたいです。

## DX・テクノロジーの活用

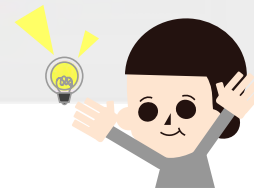
- 令和時代の取り組みとして、デジタル技術の活用にも注力していきたいです。
- マッチング希望の地域資源データベース化、オンライン商談やVR体験による地域紹介、AIマッチングなど、デジタルを活用し、より相性の良い「縁結び」ができないか検討していきたいです。

## 他分野との連携

- 農林水産分野に留まらず、教育（企業の社員研修×農村留学）、観光（企業の報奨旅行×農泊体験）、環境（カーボンオフセット植林）など横断的な連携も視野に入れていきたいです。
- 多様な分野の企業を巻き込み、「農山漁村＝様々な社会課題解決のフィールド」という認識を広げ、オープンイノベーションの場としての農山漁村の価値を高めたいと考えています。

## 継続支援と情報発信

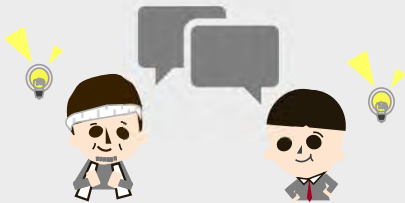
- 県としては引き続き協定締結後のフォローアップやネットワークづくりに努めます。
- 参加企業・地域の声をフィードバックし事業内容を進化させるとともに、マスメディアやSNSを通じて成功事例を積極的に発信し、地域と企業をつなぐ良い循環を生み出したいと考えています。



# 導入の留意点・ヒント -マッチング成功のために-

01

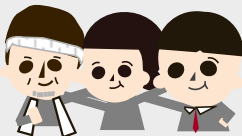
## 双方の理解を深める



事前のヒアリングや現地視察を通じて、企業には地域を、地域側も企業を理解することに努めて、共通の目的意識を醸成します。

02

## マッチメーカーの役割



行政や中間支援組織は単に紹介だけでなく、協定締結の助言、活動計画の調整、トラブル時の仲裁など伴走支援を行うことが成功率を高めます。

03

## 小さく始めて育てる



いきなり大規模な連携を目指すより、できるところから着手するのがポイントです。  
**成功体験**を共有し**信頼関係**を築くことで、翌年以降の継続・発展へ繋げやすくなります。

04

## 企業の声を反映



企業にも本業上の目的や社内での説得材料が必要です。「地域の課題解決」が最終目的ではありますが、進め方としては**企業の要望**をどんどん聞くことも大切です。







本県が取組が、全国の農山漁村での  
協働モデル構築の一助となれば幸いです。  
ぜひ皆様の地域でも地元の魅力と企業の力を結び  
新たな相乗効果を生み出してください。

👤 三重県農林水産部農山漁村づくり課

📞 059-(224)-2518    ✉ nozukuri@pref.mie.lg.jp

<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>